

令和7年11月13日

企画展「足守の歴史を彩る人々」 を開催します

豊臣秀吉の正室、ねねの実兄の木下家定きのしたいえさだに始まり、その子孫が幕末維新まで統治した備中足守藩(現在の北区足守)からは、歴史上に著名な業績を残した人物が多数輩出しています。学問や文化を尊んだ足守の気風とその人脈を、当館所蔵の貴重図書や古文書などで紹介します。

1 日 時

令和7年11月20日(木)～12月28日(日) 開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)
休館日 平日の月曜日(振替休日の11月24日は開館します)

2 場 所

岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール前の展示コーナー(北区二日市町)

3 内 容

足守にゆかりのある下記の人物の関係資料(著作や書)を展示します。

木下長嘯子きのしたちやうしやうし(1569～1649) 家定の長子で武将。関ヶ原合戦後に隠棲し、歌人として名を残す。

木下公定きのしたきんさだ(1653～1730) 江戸時代前～中期の足守藩主。近水園おみずえんを整備し、学問を奨励した。

寂庵じゃくあん(1702～1771) 足守藩士の家に生まれ、真言宗の僧侶となり、梵語を研究した。

緒方洪庵おがたこうあん(1810～1863) 足守藩士の家に生まれ、蘭学と医学を研究し、その発展に貢献した。

木下利玄きのした りげん(1886～1925) 幼少で旧足守藩主家を継ぎ、白樺派の歌人として活躍した。

あわせて当館が所蔵する旧足守藩士、田那村家たなむらの文書の中から、明治期に作成された木下家の道具帳を展示し、足守に伝来した豊臣家ゆかりの歴史遺産について紹介します。

4 関連行事

歴史講座「足守藩主木下家の道具帳(当館所蔵、田那村家文書)を読む」

日時 令和7年12月14日(日曜日) 14時～16時

場所 岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール(定員60人、事前の申込受付なし、先着順)

講師 飯島章仁(岡山市立中央図書館主査学芸員)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・杉野 直通086-223-3373



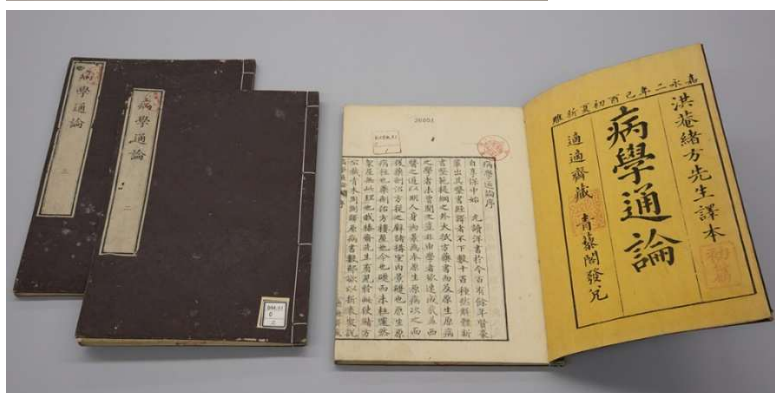
木下長嘯子「^{きよはくしゅう}拳白集」(左)

彼ははじめ武将として秀吉に仕えましたが、関ヶ原合戦での対応を咎められて失脚すると文芸に没頭し、後みずのおてんの宮廷にも交わり、瑞々しい感覚の和歌を残しました。拳白集は、それらを集大成した全集です。



木下公定「^{しんせんじ ちゅう そう か もうきゅう}新撰自註 桑華蒙求」(左)

扶桑(日本)と中華(中国)の偉人を対比させた伝記集です。京都で仙洞御所の再建を任され、足守に庭園「近水園」を築いた藩主、木下公定が、藩士の子弟の教育のために、みずから執筆・著述した書物です。



寂厳の書(右上)

仏典に用いられた古代インドの言語、梵語(サンスクリット語)を研究した寂厳は、書にも優れ、味わい深い作品を残しています。



緒方洪庵「^{びょうがく とうろん}病学通論」(左上)と「^{ふし}扶氏経験遺訓」(左)

洪庵は西洋医学の摂取を通じて近代的な科学の精神を根付かせ、福沢諭吉など多数の人材を育てました。彼が苦心して欧州の優れた医学書を翻訳・紹介した両著により、日本の医学界に病理学(基礎医学)と臨床医学の基礎が据えられました。「扶氏経験遺訓」はベルリン大学医学部教授、H・フーフエラントの原著と並べて展示します。